

第 29 回庭野平和賞 受賞記念講演

第 29 回庭野平和賞受賞者
ロサリーナ・トゥユク・ベラスケス

庭野日鑛 庭野平和財団名誉会長、庭野欽司郎理事長、ご来賓の皆様、在日各国大使、マスメディア関係者、ご列席の皆様

おはようございます。

このたび、2012 年度第 29 回庭野平和賞を受賞いたしましたことは身に余る名誉と光栄でございます。私はマヤのカチケル族の女性として、母親として、大量虐殺の生き残りとして、農業、商業、工芸で暮らしを立てるサン・ファン・コマルパの町に生まれた者として、グアテマラの人権闘争に参加し、女性、特に未亡人の権利の尊重を求める者として、正義と真実を求め、武力紛争の損害賠償を請求し、人々が生活の中に平和と調和を実現する権利を主張し、社会の軍国主義化に反対し、いのちを敬い、祖国の歴史の近年を紡いだ一人として、この度の受賞を受け止めさせて頂きます。

マヤ人の先祖は、時間、建築、数学、天文学を熟知し、類い稀なマヤ暦を生みだしました。宇宙と自然を限り無く大切にしたマヤ人の先祖に対し、心からの感謝を一度、二度、さらに三たび、捧げたく思います。日本の先住民のアイヌの皆さんには、アイヌ人の歴史を学ばせて頂いたことに感謝いたします。

マヤ暦で、今日は聖なる 0xlajuj Tz'ikin の日にあたります。この日には深い意味があり、「人間には有形の物質と靈的な本質の二つを見る目があること」を私たちに教えてくれます。平和の未来に大きな希望を託す女性の視点から、子供たちや孫たちと一緒に暮らせる生活に感謝します。私に靈感を与え、他者への奉仕の手本を示してくれた父と、夫のロランド・ゴメス・ソツツの記憶が私を支えていることに感謝します。父は 1982 年 7 月 5 日に拉致され、夫は 1984 年 5 月に拉致され、二人とも行方不明です。80 年代に祖国グアテマラで行われた 25

万人を超える大量虐殺は、国民に対する最大の残虐行為であり不正義の行為です。これらの死者の靈に祈りを捧げます。

グアテマラ国民と世界の諸国民の間に尊厳と調和への敬意を求めるといと心の奥底で願う、トウモロコシで育った男や女達の代表として、グアテマラ未亡人全国連絡会議 (CONAVIGUA) の代表として、私はここに参りました。CONAVIGUA は、連れあいを失った女性達が、人生の困難極まりない、苦痛に満ちた時期に勇気と決断を持って立ち上がり、秘密の墓地に埋められた行方不明者を捜索する道を開き、強制的な兵役義務から息子たちを守り、女性の尊厳と正義を追求し、軍隊や武装集団による人権侵害、特に先住民の女性に対する性的虐待を糾弾するため作った組織です。

この厳粛な授賞式を、謙虚に、飾らず、感謝申し上げます。世界に平和と調和の共存が実現するよう励ますべく、庭野平和賞を創設された庭野日敬師を讚えます。受賞者として今回お選び下さいましたことを、マヤ民族の地グアテマラから御礼申し上げます。今後も平和文化の発展に貢献し続ける責任を負い、より大きなエネルギーを投じて生命の尊重と民族の人権を推進いたします。マヤ人は、そのあるがままの故に、そのなりたいと願うものの故に、そして充足した人生を実現するため到達したいものの故に、尊敬を受けたいと願っております。

この機会に、広島と長崎の原爆被災者の靈と、全人類を震撼させた昨年の東日本大震災の被災者の靈に祈りを捧げます。全ての日本人との連帯を私は願います。大地、山々、水と大気の防御と保護に環境保護運動は今迄以上に貢献する大きな責任を負うという考えを皆様と共有することを願います。なぜなら、人のいのちも、動物、植物のいのちもこれらに依存しているからです。今まさに、私達が生きている環境に残されたわずかな物を汚染し続けるべきではないからです。

庭野平和財団の皆様が世界平和の促進と追求に並外れた貢献をしておられることに感謝申し上げます。世界のすべての国と地域で、戦争、軽蔑、憎悪、不寛容、暴力、人種差別の助長を防止する上で、財団のご尽力は範とすべきです。

名譽ある賞を頂戴するにあたり、ハーモナイゼーションと平和につき私の考えを述べさせて頂きます。

生命と宇宙のエネルギーの創造者である神の許しをいただき、平和の殉教者を思い起こしつつ、この記念講演でハーモナイゼーションについて語り、今日の世界が切実に必要としている調和と平和の意味を皆様と分かち合いたいと思います。私たちマヤ民族が、自らの宇宙観、文化、価値観を表現する上で、地域社会の生活の実態に応じて、何を信じ、理解し、実践し、見るかを知っていたくことが大事だと思います。

ハーモナイゼーションと平和について考えを申し上げる前に、祖国グアテマラと世界に調和と平和が不在であることを、お話しすることが大切だと考えます。

グアテマラでは、確実な和平協定が1996年に調印されたにもかかわらず、平和も調和も未だに実現していません。今日私たちは、社会として国として非常に不確実で、ほとんど混沌とした状態で生活しています。生きるか死ぬかの闘いがあり、恐怖と苦痛が蔓延し、家族と社会、経済と政治の不均衡がいたるところにあります。武力紛争は終結したが、今なお多くの死と荒廃があり、個人や集団に調和の余地が殆どなく、国民は国家を殆ど信頼しません。暴力、飢え、貧困と窮状、不平等、不正や混乱が、一生つきまとう慢性病のようにはびこっています。他方、多くの者に野心と利己主義があり、巨大な富と権力の蓄積があります。持つ者と持たない者の間に大きな不平等が存在します。

グローバルに見ると、これらの問題は世界各地にあります。国家間の不均衡が存在します。利己主義により、大多数の貧窮を一層深刻にする手段を駆使して蓄積した巨大な富があります。一方ではグローバルな金融危機があり、同時に不均衡、恐怖、混沌と政治的不均衡を伝染させる、グローバルなシステムにより蓄積された巨大な富があり、深刻な汚染、気候変動、温暖化が起きています。

排他的な政策の強制と、大量虐殺、文化破壊、特に先住民の文化の破壊は、民族間の調和を阻み、産業分野間の調和と、国家と社会の調和を阻みます。武器と爆弾は人の命を奪い、家族と地域社会を破壊し、無辜の犠牲者を生みます。

兄弟同士、人間同士が敵対するのです。

平和と調和は戦争が起きていないことではありません、飢えと病気と欲求不満があり、心の傷と経済、社会、政治の不均衡があり、これらが原因で自然界に不均衡が生じ、人間同士が連帯せず、人権、諸民族の権利、女性と若者の権利を否定すれば、個人と家族、地域社会と国家、人類に平和は無いのです。言いかえれば、平等、愛情、相互尊敬の価値観を守らなければ平和と調和は無いのです。これらの価値こそ、私たちの祖先が構築してきたものであり、人はそのために創られたといえます。

それにもかかわらず、いまだに人類は、十分過ぎる苦痛と、戦争と、飢餓の経験から学ばなかったのでしょうか。なぜ人類は調和を実現していないのでしょうか。何がそれを妨げているのでしょうか。その原因の大半は、個人と集団、国家とその集合体が、我欲と物欲にとらわれてきたからです。

ハーモナイゼーションの意味は、自分自身に対して、また他の人間と、母なる大地と、動植物と、宇宙から届く全てのエネルギーと、よい関係でいることです。調和がとれていることは喜びであり、幸せ、自由であり、自然の恵みを享受し、健康、教育、勤労、住居、汚染のない環境など、すべての物質的、精神的、感情的、社会的ニーズを満たすことです。マヤ人の文化ではこれを「満たされた生活」或いは「生活の充足」と呼びます。これこそ私達が求めていることであり、全ての人とあらゆる国と人類に望んでいることなのです。

ハーモナイゼーションについて語り、説明するのは大きな責任を伴います。ハーモナイゼーションは、人がお互いに持つべき敬意と配慮と不可分であり、人類と母なる自然との相互の関係性そのものだからです。私たちに先んじて生き、今は異なる生の次元にある祖先は、すべての次元のあらゆる生き物と共存しなければならないと教えました。この教えこそ、この世に存在する一番小さな生物から一番大きな生物までいのちの継続性を保証し、地球と宇宙の生命を保証するのです。

ハーモナイゼーションは、思考し善悪を識別できる人間が生み出す、最高の社

会的、精神的、物質的表現であり社会行動であると理解されるべきです。私達は人生がもたらす様々なステージで、不平等や不正義に苦しむ人たち、基本的なニーズを満たせず苦しむ人たち、戦争の後遺症に苦しむ人たちに奉仕し、役に立つことができます。マヤの世界観において、存在の目的は均衡と調和の維持です。マヤの根本思想は、公平、平等、人の共存、コミュニティーの共存の原則に立ち行動できることであり、いかなる人も無視しないことです。

今日、人類は世界的に非常に深刻な危機に見舞われています。危機とは、私達が体験しつつある社会的、経済的、政治的、軍事的な荒廃であり、環境の悪化であり、地球温暖化です。人が感知でき、回避できない現実に目を閉じることはできません。しかし、マヤの祖先や世界の先住民の祖先は、宇宙とそのエネルギーならびに社会とその振る舞いをより厳密に研究することにより新しい時代が来る、と言っています。新しい時代はマヤ暦の新しい周期に結び付き、新しい周期は西暦 2012 年 12 月 21 日に始まります。

この新時代を人類の命運を理解することから始めねばなりません。命運とは満ち足りた人生であり、倫理的に行動する人と社会なのです。このことを言ったのは私たちの祖父母ですが、男も女も、惑星である地球も、母なる自然も、宇宙も、あらゆる次元での調和のとれた生活が、人々と人類の未来の生活になるべきだとの深遠な希望を、私たちは抱いています。この新時代は、ハーモナイゼーションと平和の重要な要素としての均衡と正義と尊敬を必要としています。今人類の行いに疑問を呈する意識が世界の多くの地で高まっています。特に権力に対する疑問であり、混沌、恐怖、不正義、不均衡の原因に対する疑問です。これこそがマヤ人の祖父母達が心に刻み込み、言ってきたことなのです。

人の運命は時代の持つ符号と首尾一貫しており、私達の祖先が予見した暁に結びつくはずです。現在の情況はこの運命を考える上で特別な機会となり、人類が自らを再生するプロセスを創り出す機会を与えています。同時に、私たちひとりひとりに、我々がどこから来て、どこに行くのか、調和ある答えを探す機会を与えているのです。その意味で最も大切なことは、異なる文化の共存を実現する心の準備をし、人々の靈性を敬い、過去から学び、変革することです。

人類には、自らを変革し、いのちの新たな意味を受け入れ、伝え、満ち足りた生活を可能にする全てのことにつき生のエネルギーを注ぎ込む機会があります。この意志決定は、人類が過去とは異なる深い精神性に根ざした態度を要求します。この道によってのみ、人類は時代を超越して自らを鍛えるのです。これは一変革プロジェクトではありません。私たちの祖国と世界にハーモナイゼーションと平和を達成する変革プロセスなのです。これこそが、私たちの挑戦であり試練です。私たち全員が人生と尊敬と勤労の構築者であり、資質と能力を備えています。私たちの使命は、この資質と能力を育て、幸福と希望と愛と理解にあふれた平和とハーモナイゼーションの実現に貢献することです。

ありがとうございました。